20220925　　猪高の森自然観察会　2022 年 9 月報告書

猪高の森自然観察だより　9 月号

開催日時:2022 年 9 月 25 日(日)　9:30～12:00
天候:曇りのち晴　　気温:最低 18. 4℃、最高 29. 2℃(名古屋に於いて)
テーマ:猪高版・秋の七草と棚田の稔り
参加者構成：一般 18 名（内 NACS－J 指導員 3 名）
コース予定:森の集会所 → 畑 → 井堀の大クス→ 井堀の棚田 → ハンノキ湿地→ こもれび池 → 森の集会所

９月になっても気温の高い日が続き、秋の花の開花が遅いように感じます。台風も到来し、雨量が記録的に更に増えています。
猪高の森でも、まだ、ツクツクボウシが鳴いていますが、１６日にヒガンバナの開花が確認されるなど秋も少しずつ近づいています。
ラニーニャ現象の影響で秋は短く、冬は寒い予報が出ています。

〇これでもキノコ！“イカタケ”

初めて見ました。
大きさは 5～7 ㎝くらい。
香りはお世辞にも良いとは言えません。
魚介類が腐ったような匂いです。
調べると
「変動しやすい生育環境に依存するため、
継続して発生する産地がない」
の記載がありました。
毎年、同じ場所には生えず、たまたま今年ここに見られたようです。
中心の黒い部分（グレバ）にはハエがたかっていました。
グレバは悪臭を放ち、ハエなどの昆虫を誘い胞子を運ばせる役目があります。

左は幼菌、中は育ちつつあるイカタケ。右はよく見ると、「輪」の形に生えている様子です。

フェアリーリング（妖精の輪）のようでした。

これもキノコ。
でも、正体が分かりません。「フワフワ、ぷにゅぷにゅ」でした。
スッポンタケの幼菌か、別の種類か。

これは**クチベニタケ。**
画像を見れば、納得します。

キノコの仲間は森や林の中でとても重要な働きをしています。調べてみると、中々の働き者で、いろいろ分解するだけでなく、他の植物や動物と共生し、また、胞子が雨粒の核になっていることもあるそうです。これからも様々なことが分かってくるでしょう。

〇鳥の渡りが始まっています

９月３０日に塚の杁池にて見られた**コガモ**です。
コガモは渡りが比較的早いと言われています。
これから、徐々に種類が増えていくでしょう。
鳥好きの方々は、タカの南への渡りを見に行く時期になりました。
平地では、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、コゲラなどの小鳥たちが、子育てを終わり冬に向け、種類の違いを超えて、「混群」を作り始めます。「天敵を早く見つけるため」「少ない食料を効率的に見つけるため」と言われています。

【エクリプスって何？】

カモ類の本を見ていると「エクリプス」と言う言葉がよく出て来ます。これは、「冬羽」のこと。
「換羽」と呼ばれる羽の生え変わりを、秋の終わりから冬にかけて行い、「夏羽※」に変わります。
※：カモ類は冬羽は非生殖羽、夏羽は生殖羽で、夏羽に生え変わるのは必ずしも夏ではありません。

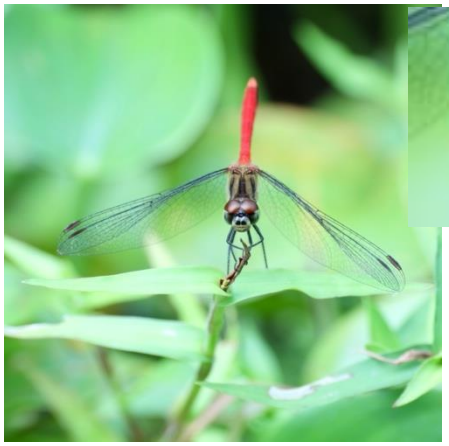
〇ヌスビトハギとアレチヌスビトハギ

どちらも「ヒッツキ虫」ですが、ヌスビトハギは在来種、アレチヌスビトハギは外来種で、生えている環境も微妙に異なります。ヌスビトハギの名前の由来は、果実がコッソリ抜き足差し足で歩く盗っ人の足の形に似ているからとか。

ヌスビトハギ:半日陰～日陰の自然度の高い場所に生育します。小節果は２個。葉の側脈は縁まで達します。（上の画像・果実）
猪高の森は少なくなりつつあるヌスビトハギが散策路から観察しやすいと思います。

アレチヌスビトハギ：北アメリカ原産。日当たりのよい荒れ地に育ち、小節果は４～７個。葉の側脈は縁まで達しません。（下の画像・花と果実）」

〇赤トンボの仲間や虫たち



左は、**マユタテアカネ**と顔の拡大図
口の上のひょうたん型の黒い紋を眉に見立てたとのことです。
（私には、どうしても「ちょび髭」にしか見えないのですが・・）
下段左は**リスアカネ**、右は**ノシメトンボ**。

トンボの仲間の見分け方は、胸側部の黒い筋の有無や形、翅の模様など変異が多かったり、成熟度の違いで体色が変わったりするのでいくつか特徴を組み合わせないと不可能とのこと。

最初に紹介した**マユタテアカネ**でさえ、この特徴のみでは識別できないとの事、本を片手に、あるいは画像をあとで分析することが、はじめのうちはよさそうです。

左は**ツチイナゴ**の幼虫
右は同成虫です。
頭部の複眼の下に涙が流れたような茶色の筋がありますが、それを特徴として見分けてください。

左は**オンブバッタ**
（下にいるのがメス、おんぶされているのがオスです。）
右は**コバネイナゴ**
バッタ類の耳は胸部にあるそうです。

左は**イボバッタ**
右は**ショウリョウバッタ**
どんなバッタが草原にいるかで、その草原の自然度が測れるそうです。
オンブバッタだけがいるよりも**ショウリョウバッタ**がいるところの方が自然度が高いとのことです。

左は**アオハナムグリ**
右は**シラホシハナムグリ**
姿が似ている３種の虫がいます。
ハナムグリは体が四角できれいな斑点模様、
カナブンは体が四角で翅の付け根が、逆三角形、**コガネムシ**は体が丸くて翅の付け根が楕円形とのことです。違いが分かりますか？

この中で、葉や根を食べて少なからず害を及ぼすのはコガネムシだけです。

〇色づき始めた実と花

左は**ゴンズイ**の実

役に立たないのでこの名がついたというけれど、若葉を食用にしたとか。(名については異説あり。)

右は**クサギ**の実。臭い(？)のは葉で、花は良い香り、実も美しい青。食用にも若葉を利用。

左は**アオツヅラフジ**の若い実。熟すると青紫色になり、美しい。

右は**ヤマノイモ**のむかご。ご飯と一緒に炊いた経験をされた方もいるでしょう。

左は**フジ**の実。熟してはじけるとその力で遠くに種を飛ばす。自力散布の代表種。種を食べるときは、要注意。毒性があります。

右は**ヤブミョウガ**の実。中の種はチョット変わった不定形で、丸いくぼみがあります。

左は**カラスウリ**の若い実。熟すと赤くなり、種は奴さんの形。花は日没後にしか咲かず、ポリネーター（送粉者）は大型のスズメガ。

右は**スズメウリ**の花と若い実。カラスもあれば、ズメもあります。

左は**イヌザンショウ**の実。サンショウと同様に食用になり、質は劣るとか。
右は**クズ**の花。秋の七草のひとつ。根から葛粉を取り、食用にしますが、アメリカ（合）では侵略的外来種に指定されています。

左は**ガガイモ**の花。実は大型の紡錘形で熟して飛び出す種は、フワフワの毛がついて風で運ばれます。
右は**マメアサガオ**の花。北アメリカ原産。1955 年の東京近郊で確認されています。

左は**ツルマメ**の花。ダイズと近縁でその原種と考えられています。縄文時代の遺跡からも確認されています。
右は**ワレモコウ。**これでもバラ科の宿根草です。名前の由来には諸説あります。

右は**ヌルデ**の花。右はその虫こぶで五倍子や付子と呼ばれています。
花には多くの種類の虫たちが吸蜜に集まっていました。虫こぶからは薬や染料となるタンニンが取れます。ウルシ科ですがかぶれる成分は少ないです。

左は**ヤマハゼ**の実。これもウルシ科の木です。かぶれの成分「ウルシオール」も含んでいますので、注意します。美しい赤に紅葉します。

右は**ヨウシュヤマゴボウ**の花。名前から判断して食べると中毒します。毎年、事故が起きています。

左は**コバノカモメヅル**の花。右の白い花は**アヅマカモメヅル**の花。

名の由来は、花の中心がセグロカモメの目に似ているからとか、対生の葉がカモメの飛翔する姿に似ているからとか、多説あります。

左は**キンミズヒキ**の花。金色の水引が名前の由来。果実には棘があり、衣類にくっつきます。所謂、「ヒッツキ虫」。

右は**ツリガネニンジン**。花が釣鐘型、根がチョウセンニンジンに似ているから、この名がついたとの事。若い芽は山菜の「トトキ」と呼ばれ食用にされます。

左はオオスズメバチ

この時期、特に要注意です。飛んで来ても、じっとして、振り払ったりせず、去るのを待ちましょう。何もしません。

まだまだ、沢山ありますが、今月号はこの辺で・・

次回観察会は

10 月 23 日（日）　9：30～

森の集会所集合　です。